

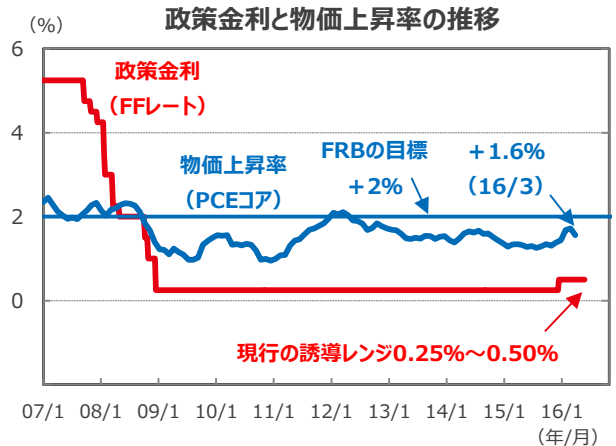
## 今日のトピック 米国の金融政策（2016年5月）

# 近く利上げに踏み切る見通し

### ポイント1 近い将来の利上げが妥当

#### 利上げは慎重に行われよう

- 米連邦準備制度理事会（FRB）のイエレン議長は、5月27日の米ハーバード大学での討論会で、「金融当局が時間をかけ緩やか、かつ慎重に政策金利を引き上げていくのは妥当」と述べ、「今後、数カ月のうちに行うのが適切になるだろう」と語りました。
- 「米国の経済は改善を続けており、労働市場の改善と並行して、エネルギー価格の下落、ドル高といった一時的な要因が一巡すれば、物価上昇率は今後、数年間で目標の2%に到達する」見通しであることが、その理由です。



(注1) FFRは2007年1月5日～2016年5月30日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。  
 (注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年3月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。  
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 5月の雇用統計が鍵

#### 英国の国民投票には要注意

- 6月3日公表予定の5月の雇用統計で、米国労働市場の改善持続が確認されれば、6月14日、15日ないし7月26日、27日開催予定の連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げが決定される可能性が高いといえます。
- 6月23日には、英国で欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票が実施されます。投票をめぐる不透明感の高まりが、国際金融市場に混乱をもたらすリスクには要警戒です。

#### FOMC参加者の経済見通し(2016年3月時点)

項目	2016年	2017年	2018年
GDP成長率 (%)	2.2	2.1	2.0
失業率 (%)	4.7	4.6	4.5
物価上昇率 (%)	1.6	1.8	2.0
FFレート (%)	0.9	1.9	3.0

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。見通しの時点はFOMCの開催月。

(出所) 米連邦準備制度理事会（FRB）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 株価は景気拡大を織り込む展開になる見込み

- 5月半ば以降、FRB高官から利上げに関する発言が相次ぎました。今回のイエレン議長の発言内容は、それに沿ったものといえます。5月初旬には利上げ期待の織り込みはほとんどありませんでしたが、高官発言を受けてドル、長期金利は上昇しています。
- 一方、株価も上昇しました。原油価格の値上がりもあり、リスク選好度が高まったためです。米経済の持続的な拡大に加え、需給改善などを受けて原油価格の底堅い推移が見込まれることから、しばらくリスク選好度は高い水準を維持する可能性があります。

### ここもチェック! 2016年5月9日 米国の雇用統計（2016年4月） 2016年5月6日 米国のISM景況感指数（2016年4月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。